

園長先生の子育てひろば

令和5年3月

大盛だけちょっと普通で

園長 山中 文

きょうの幼稚園の給食はハンバーグでした。あちこちで、「やったあ、きょうハンバーグだあ」という声が聞こえます。ある年長のクラスに配膳のお手伝いに入りました。各々のお皿に盛り付けると、給食係の園児がそれを班員分取りに来ます。口々に「〇〇ちゃんはお野菜少なめ、ハンバーグ大きめで」とか、「どちらも大盛！」とかリクエストがあります。どのハンバーグも見た目にほとんど大きさの変わりはないのですが、子どもたちの目は真剣です。私も少しの大きさも見逃さないようにリクエストに応じて盛り付けします。

そうしているうちに、ある給食係の園児が、「大盛だけちょっと普通で！！」と言ってきました。「ん？大盛？ちょっと？普通？」と、思わず手が止まってしまいましたが、「少しだけ大盛ということかなあ」と確認して盛り付けたことでした。隣で、担任の教諭の肩が小刻みで震え、目が笑っていました。

年長さんになってくると、配膳の際、友だちの食事量をいろいろと気遣います。考えた結果の言葉だったのかもしれませんが。

お家で子どもたちが配膳のお手伝いをするにはあるでしょうか。幼稚園では、年少さんではまだ教師が配膳したり園児が個々に取りに来たりするのですが、年中さんの後半あたりから、給食係の園児が出勤して、班の人数分のごはんやおかずを取りに来ます。小さいお盆にすべりどめのマットをひいて、その上にお皿やお碗を載せて、そおっと運びます。まだまだ運ぶのに一生懸命で先のような言葉はないのですが、年長さんになって運ぶのに慣れてくると、スープも一度に3、4人分運んだり、配膳先の園児の食事量を気にした言葉が出はじめたりします。

お家でも、年齢に応じて、配膳のお手伝いを少しずつ取り入れてみてもいいかもしれませんね。すべりどめマットをひいた小さなお盆やエプロン、三角巾があると、配膳スタイルも決まり、その気になってくれます。嬉しくお手伝いができますよ。子どもたちは、お手伝いすることだけでなく、その中で、重さを体感したり、こぼさないように運ぶにはどうしたらいいかバランスをとったりという学習をします。そして、配膳先の人の食事量から、量を意識したり、気を配る会話が生まれたりします。

こういう光景を見ていると、まさに幼児期は、生活の中から、さまざまな学びの根っこの部分を体感していく面白い時期だということがわかりますね。

